

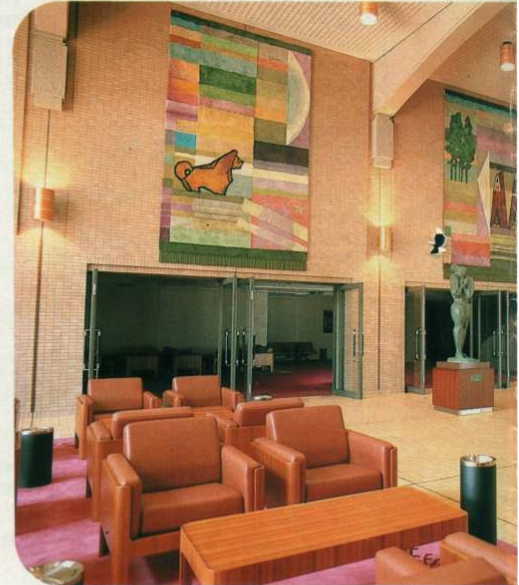
市民文化会館 ご案内

昭和55年9月から工事が進められていた市民文化会館が、ついに完成しました。建物は、秋田杉や曲わっぱの伝統美を踏襲しながら、新しい大規模なものです。市民文化会館の完成は、秋田市、教育文化都市「大館」の街づくりに大きな役割を果たします。



中ホール

四百十六人収容の中ホール。天井、壁面には秋田杉が使用されており、落ちついた雰囲気をかもし出しています。どん帳は内田慎蔵画伯の「杉林の太陽」です。



エントランスホール

正面玄関を入ったところへのプロムナード。中ホールと大ホールを結ぶ。



中ホールホワイエ

大ホール効果室

客席後方の天井付近に調光室、映写室、ミキサー室があります。ホールの心臓部にあたるこれらの部屋では、舞台効果を盛り上げるために裏方が活躍します。



中庭



リハーサル室

壁面が鏡張りのこの部屋は、舞台上で練習する前の仕上げの場です。ほかに練習室が3室あります。



会議室

この会議室は6畳、ペット敷きで、大規模な会議ができます。

中ホール効果室

ホールの音響、照明などはすべてこの部屋で操作します。



楽屋

大ホール用三室、中ホール用二室あります。



会館の特長

- 1 全体がクラシック調の仕上げ
- 2 前面に市民広場のあるガーデン型式を採用
- 3 外壁には打込タイルを使用
- 4 文化財「曲わっぱ」を基調に、外観は丸味を帯び、内部は随所に秋田杉を使用
- 5 大ホール、中ホールとも固定席とし、ワンストップ方式を採用
- 6 エントランスホールに中庭を配置
- 7 母子席(四席)、車椅子席(六席)を配置

利用開始 五十七年八月一日から

総事業費 二十四億二千四百万円

(この財源は、国民年金からの還元融資、国・県からの補助金、文化会館建設基金、一般財源などです)

工期 着工 五十五年九月二十四日
完成 五十七年二月二十五日

建築面積 五、〇七五 ㎡
延床面積 六、三八二 ㎡
構造 鉄筋コンクリート造り一部鉄骨造り
地下二階、地上三階塔屋一階
大ホール 一、二〇六席
(定席二一九八席、母子席四席、車椅子席四席)
中ホール 四一六席
(定席四二四席、車椅子席二席)